

1 基本理念及び基本方針

共に支え、元気と安らぎあふれるまちづくり

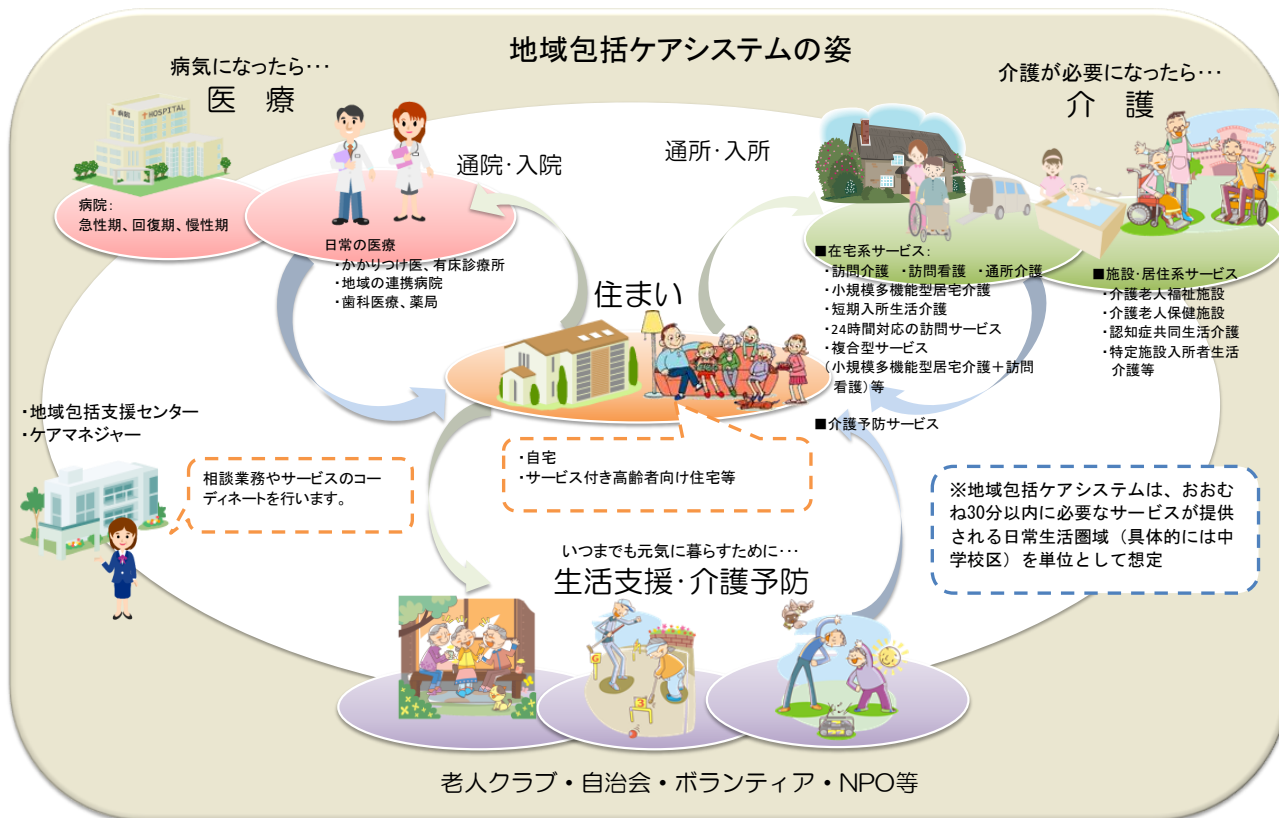
～地域包括ケアシステムの推進と

地域共生社会の実現を目指して～

急激に進展する高齢社会に適切に対応しながら、高齢者の誰もが地域の支えあいの中で、安心して健やかに自立した生活を送ることができ、豊かでゆとりのある活気にあふれた地域社会を構築することが重要です。

また、高齢者がこれまでに培ってきた優れた技術や経験、知識を活かしながら、自ら社会に参画し、自助・互助・共助の精神にあふれた地域づくりに積極的に取り組むことも必要です。

当市では、明るく活力に満ちた高齢社会を確立するため、高齢者が生きがいをもって社会に参画し、健康で自立した生活を送ることができ、さらに介護を要する状態となっても住み慣れた地域社会の中で安心して生活を送ることができるよう支援するとともに、共生社会の実現に向け市民みんなで支え合えるより良い地域社会の実現を目指します。



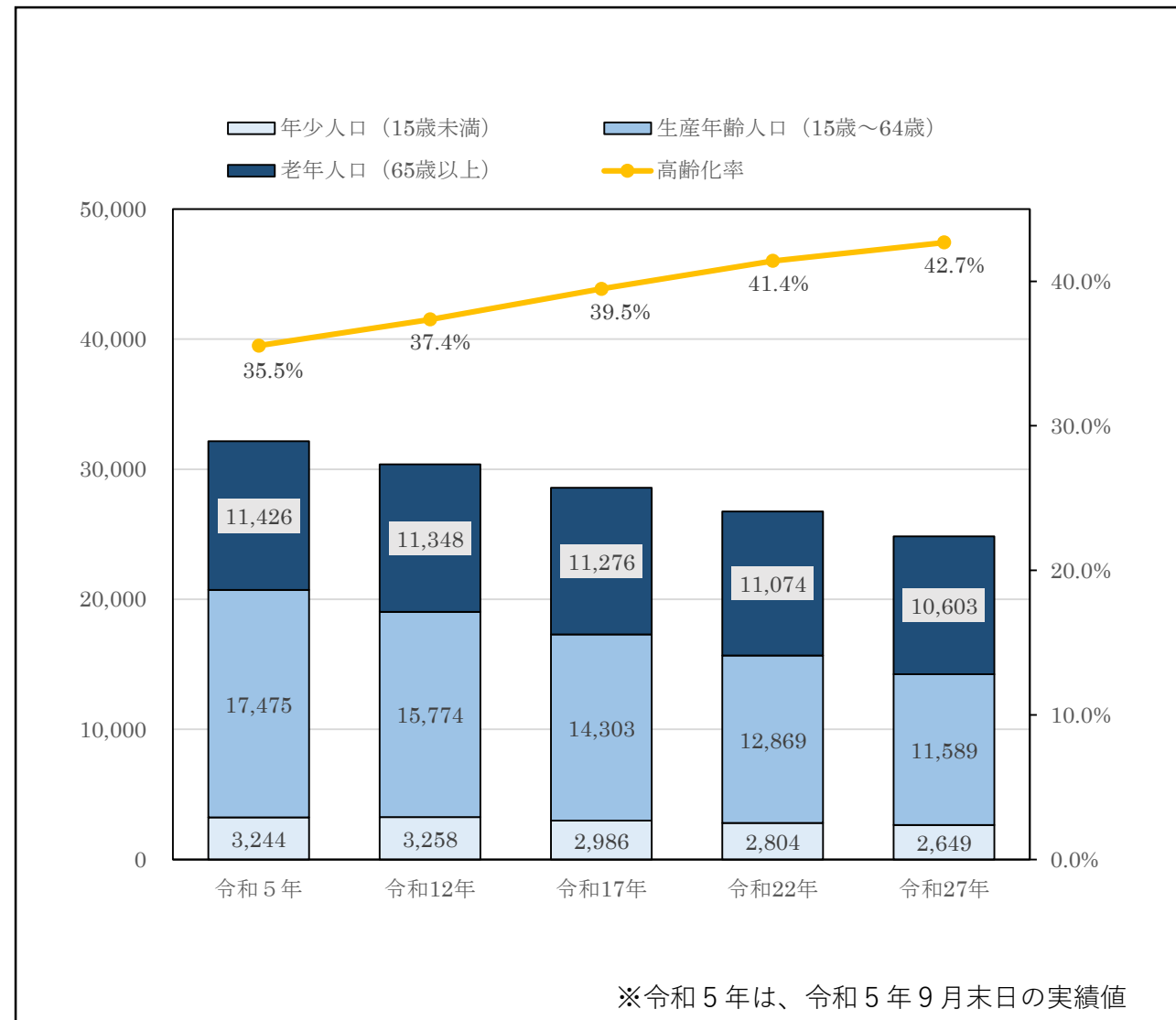
2 計画策定の背景と趣旨

当市の、高齢化率は上昇傾向にあり、令和5年（2023）9月末時点の高齢化率は35.5%となっています。また、人口推計（久慈市人口ビジョン）によると、令和12（2030）年には高齢化率は37.4%となり、さらに上昇することが予測されます。多様化・複雑化する課題に対して制度や分野を超えた連携強化と取組の充実が必要です。

前回計画では、「地域包括ケアシステム」の深化・推進と、地域共生社会の実現に向けて取り組みました。

これまでの施策や方向性を引き継ぎ、団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年（2040年）を見据えた中長期的な視点を持ち、地域住民や関係機関等と連携を強化しながら高齢者福祉施策を充実させるため、「久慈市高齢者福祉計画（計画期間：令和6（2024）年度～令和8（2026）年度）」を策定します。

●人口と高齢化率の推計



3 計画の期間

計画の期間は、介護保険事業計画と同一の令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までの3年間とします。

4 高齢者福祉計画の現状と今後の取り組み

- ア 健康や生活を支援する事業の充実**
 - ・課題は多様化・複雑化する傾向にあり、相談対応スキルの向上と体制の充実とともに、制度や分野の枠をこえた連携強化が必要です。
- イ 認知症対策及び成年後見制度の利用促進**
 - ・「認知症カフェの増」、「関係事業所との意見交換機会」など支援体制の構築が進んでいますが、若年性認知症施策や、認知症サポーター等と連携したチームオレンジの活動など、「認知症バリアフリー」の実現に向けてさらなる取組の充実が必要です。
- ウ 安心して快適に生活できる環境・サービスの充実**
 - ・高齢者福祉アンケートにおいては、病気等で身の回りのことが自分でできなくなった時にも自宅で過ごしたいという意見が最も多いことから、在宅支援事業の更なる充実が課題です。
 - ・災害発生時には自分で避難をすることが難しい高齢者等を一人も見逃さない支援体制づくりの推進が必要です。
- エ 生きがいを持って生活するための支援の充実**
 - ・老人クラブ活動やふれあいサロン活動は、長期化した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動が停滞している団体もあることから、老人クラブ連合会や社会福祉協議会と連携した活動の支援が必要です。
- オ 高齢者を支えるための連携強化**
 - ・少子高齢化や核家族化が進む中、医療・介護・福祉分野のみで全てのニーズや状況に対応するのは難しくなっていることから、連携体制のさらなる強化と広がりに向けて取り組む必要があります。

5 高齢者の現状と将来の姿

- ・高齢者数は減少傾向だが、高齢化率の上昇は続き、少子高齢化の更なる進展が予想されます。
- ・高齢者単身世帯、高齢夫婦世帯の数は増加しており、特に高齢者単身世帯の増加が顕著となっています。
- ・65歳以上の高齢者の就業者数は増加しています。
- ・久慈広域連合の要介護等認定者数は、令和6（2024）年度の4,025人をピークに減少が続く見込みです。久慈市も同様の傾向で推移するものと予測されます。

6 計画体系

基本理念

共に支え、元気と安らぎあふれるまちづくり
 ～地域包括ケアシステムの推進と地域共生社会の実現を目指して～

